

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価			岐阜県立大垣工業高等学校 全日制	学校番号	27
1 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と確かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 				
2 現状の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○工業の専門的な学習に興味を持ち、落ち着いた態度で前向きな学校生活を送っている生徒が極めて多い。 ○西濃地方唯一の工業高校として、地域のものづくり産業を支える人材を輩出している。地元企業からの信頼も厚く、就職状況は良好である。(H29年度の場合、求人倍率6.2倍、就職者の県内就職率75.3%) ○資格取得者が多く、就職に対して意欲の高い生徒が多い。求人にも恵まれており、自分の希望する職種に就職しやすい。 ○部活動やものづくりにおいて、地道によく努力して優れた成果を上げている。 ▲日本全体の傾向ではあるが、不登校などの教育相談が必要な生徒が、少しずつ増加している。 ▲卒業後、グローバルに働く生徒が増えていることを踏まえると、基礎学力やコミュニケーション能力が、不十分な生徒がいる。 ▲志願者が入学定員を満たしていない学科がある。 				
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領の趣旨を具現するための授業改善（アクティブラーニングの導入） ・支援を要する生徒等、個に対応した指導の充実 ・地域企業や社会に貢献するとともに、グローバルに活躍できる人材の育成 ・本校の教育活動の積極的な広報 ・チーム大工としての組織的な指導力の強化 				
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 (4) 地域に開かれた信頼される学校づくり 				
年度目標			年度末評価		
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な具体的 取組・方策	7 達成度の判断・判定基 準あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価 項目の達成状況等	9 評価 A～D	10 成果と課題
(1) 学習指導	①アクティブ・ラーニングに関して、 学校活性部を中心として研究を推 進するとともに、教科ごとに目標	①生徒による授業評価の 結果 ②生徒・保護者アンケート	・AL型授業推進のために、 各教科ごとに具体的な実 践目標を設定した。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員がAL型授業 を理解できた。 ・次期学習指導要領の実

	を定めた実践を行う。	<p>の回答</p> <p>③研究授業・公開授業の教員間評価</p> <p>④研究授業・公開授業の実施件数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の教育委員会訪問時に、全教員がAL型授業を実践し公開した。 ・若手教員を中心に、AL型授業推進のため、ICT機器を効果的に使うなど、新しい授業のスタイルも構築できた。 		<p>施へ向け、今後も継続的な研究と実践が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベテラン教員の一層の奮起が必要である。 ・今後は、AL型授業の定着が必要である。
	②海外インターンシップ、プレゼンテーション大会、SDG'sに関する取組、英語力の養成を取組の軸として、グローバル人材の育成を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校活性部が中心となって、プレゼンテーション大会開催など、今年度新たな取組を始めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン大会やSDG'sについては、特定の教科・科目内での取組にとどまっている。教科横断的に実施できるようなカリキュラムマネジメントが必要である。 ・SDG'sに関する取組については、さらなる深化が必要である。
	③5S運動について、学科主任の小集団活動による点検等を通して、 ⑦設備・物品の安全な配置や管理 ①安全に関する掲示 ⑦不要物の廃棄 を積極的に推進する。		<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の取組状況は、 ⑦設備・物品の安全な配置や管理→△ ①安全に関する掲示→× ⑦不要物の廃棄→○であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学科主任の小集団活動を行う時間が、なかなか確保できないという課題があった。 ・次年度は、⑦設備・物品の安全な配置や管理、①安全に関する掲示に力を入れる必要がある。
(2) 生徒指導	①教育相談体制の強化を図り、生徒情報の共有化を進めるとともに、外部の専門家の積極的な活用を含めた組織的対応を推進する。	<p>①前年までの統計との比較</p> <p>②いじめの早期発見と対処の状況</p> <p>③支援生徒の生活改善状況</p> <p>④外部専門家の招へい回数</p> <p>⑤ケース会議の開催回数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室の人員を、本年度より1名増員し体制を強化した。 ・<u>ケース会議の開催、生徒指導部会からの迅速な資料提供によって、校内での情報の共有化が進んだ。</u> ・H29年度の休学、退学、転学等の生徒数は、H28 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制が充実した。

			年度の約半数以下で推移している。(H30年1月末日現在)		
	②特別な支援を要する生徒について、職員研修により理解を深めるとともに、ケース会議の開催や個別の教育支援計画の作成などにより、個に対応した指導を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議の開催、外部機関との連携を積極的に実施した。 ・<u>個別の教育支援計画の作成については、対応が遅れる場合があった。</u> 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、「いじめ防止対策」や「<u>個別の教育支援計画作成</u>」を迅速かつ組織的に行うことが必要である。
(3) 進路指導	①本校が独自に作成した「大工手帳」を全生徒に印刷・配布するとともに、積極的な活用を通して、目標管理や自己管理を行い、キャリア教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ①「大工手帳」と「進路の手引」の活用状況調査の結果 ②卒業する生徒の進路内定率100%への達成度 ③基礎力診断テストの判定結果や、学習教材(マナトレ学習)の到達度診断の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が、手帳を活用するようになってきた。 ・卒業する生徒のほぼ全員が、進路先を内定させることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス(学科)による差がある。学年統一での取組が必要である。
	②朝学習について全学科で共通した取組を増やすことにより、使用する教材のレベルアップを図り、基礎学力の定着を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・一定の成果を上げてはいるが、校内での共通理解が不足している面がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>朝学習の見直し(マネジメント)</u>が必要である。
	③情報技術科の進学指導について、進路相談や補習の充実を図り、国公立大学を含む生徒の進路希望の実現を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・国立大学や地元の有名私立大学に複数名が合格するなど、一定の成果を出している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる飛躍のために、<u>情報技術科の進学指導体制の見直し</u>が必要である。
(4) 学校経営	①学校行事や部活動の成績等の適時的な記事の提供やスマートフォンへの対応など、ホームページの更なる改善・充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ①学校ホームページのベース(基本構成)部分の改訂状況 ②学校HPの更新回数 ③保護者アンケートの回答 ④地域に貢献する活動への参加人数 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの全面リニューアル完了。スマホにも完全対応。 ・適時的な記事の提供も実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPについて、適時的な記事の提供の継続が必要である。
	②地域産業のニーズや将来の少子化を踏まえ、特色ある学科の在り方や教育課程について、既存の学科の枠を越えた検討を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・例年通りの取組となった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の到来を踏まえ本格的な検討開始が必要である。
11 総合評価	B				

12 来年度に向けての改善方策案

1 生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進

- ①アクティブ・ラーニング（AL）に関して、教科ごとに目標を定めた実践を継続するとともに、AL型授業の定着を図る。
- ②海外インターンシップ、プレゼンテーション大会、SDG'sに関する取組、英語力の養成を取組の軸として、グローバル人材の育成を図る。プレゼンテーション大会やSDG'sに関する取組については、教科横断的に実施できるようなカリキュラムマネジメントを行う。
- ③5S運動について、学科主任の小集団活動による点検を通して、設備・物品の安全な配置や管理、安全に関する掲示を積極的に推進する。

2 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進

- ①充実した教育相談体制を維持し、生徒情報の共有化を一層進めるとともに、いじめ防止対策を迅速に実施できる体制を構築する。
- ②特別な支援を要する生徒について、職員研修により理解を深めるとともに、ケース会議の開催や、外部の専門家の活用、個別の教育支援計画の迅速な作成及び適切な実施などにより、個に応じた指導を行う。

3 一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進

- ①「大工手帳」の一層の活用を通して、目標管理や自己管理を行い、キャリア教育を推進する。
- ②朝学習について、全学科を見通したマネジメントにより、成果の向上を図る。
- ③情報技術科について、進学意識の向上を図るとともに、適切な進路相談や充実した補習により、国公立大学を含む生徒の進路希望の実現を図る。

4 地域に開かれた信頼される学校づくり

- ①地域産業のニーズや将来の少子化を踏まえ、特色ある学科の在り方や教育課程について検討する。特に、「専門高校生地域連携推進事業」では、日頃の授業（カリキュラム）との連携を重視した地域貢献活動を実施する。
- ②地域や保護者のニーズを踏まえながら、一分掌一改善や、部活動のルールの見直し等により、教育の質を落とさない教職員の働き方改革を推進する。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月30日

- 1 学習指導（生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進）
 - ・アクティブラーニングの推進は、今後も必要である。
 - ・生徒のコミュニケーション能力向上を目指す取組や、プレゼン能力向上を目指す取組を、今後も進めていく必要がある。
 - ・5S運動（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）の推進や安全管理の徹底は今後も必要である。
- 2 生徒指導（生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進）
 - ・生徒が、自分の悩みやいじめの問題などを、普段から気軽に何でも相談できるような雰囲気づくりを進める必要がある。
 - ・問題を抱えた生徒に対しては、個に応じた指導（支援）が今後も必要である。
- 3 進路指導（一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進）
 - ・社会へ出てからの早期離職などを避けるために、生徒の「精神的な強さ」や「目標管理や自己管理能力」を高めるような指導が必要である。
 - ・生徒に、コツコツと取り組ませることによって基礎学力は身に付いていくと思うので、朝学習などにおいて、今後はもう少し何か工夫をするとよい。
- 4 学校経営（地域に開かれた信頼される学校づくり）
 - ・社会貢献・地域貢献に関することを生徒に理解させるために、実際に生徒に社会貢献や地域貢献を体験させる活動を、今後も取り入れるべきである。
 - ・働き方改革について、教育の質を落とさずに働き方改革（時間外勤務の縮減等）を進めるのは簡単ではないと思う。しかし、これからは、一つ一つ進めていかなければならない。